

令和4年度第1回広島市公民館運営審議会 会議要旨

日時	令和4年7月21日(木) 午前10時00分～11時30分		
場所	広島市役所 本庁舎14階 第7会議室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	0人
出席者	<p>委員 : 新川恵美、福原剛、上谷信夫、神出恭子、高田登代子、田頭一徳、岩元佳子、大坪眞理子、久井英輔、山川肖美、脇谷孔一</p> <p>事務局 : 末政市民局次長、田尾生涯学習課長、小松課長補佐、高木主査、中村主事</p> <p>地域起こし推進課公民館担当課長 (区調整公民館長) : 砂原課長 (中区)、平野課長 (東区)、浅木課長 (南区)、倉本課長 (西区)、中村課長 (安佐南区)、森口課長 (安佐北区)、女鳥課長 (安芸区)、伊藤課長 (佐伯区)</p> <p>(公財)広島市文化財団 : 国府田次長、(高陽公民館)浮田公民館専門員</p>		
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第1回広島市公民館運営審議会次第 ・ 資料1 令和3年度事業報告について ・ 資料2 令和4年度事業計画について ・ 資料3 広島市公民館の取組について (事例紹介)「オレンジカフェこうよう」について (高陽公民館) ・ 参考資料1 広島市公民館学習会の実施方針 (体系) ・ 参考資料2 コロナ禍における公民館活動及び運営について ・ 参考資料3 広島市公民館運営審議会関係法令等 (抜粋) ・ 参考資料4 広島市公民館運営審議会委員名簿 		

議事 (会議要旨)

<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和3年度事業報告について</p> <p> <説明></p> <p> 資料1に沿って説明 (田尾生涯学習課長)</p> <p>(2) 令和4年度事業計画について</p> <p> <説明></p> <p> 資料2に沿って説明 (田尾生涯学習課長)</p> <p> <質疑等></p> <p>脇谷委員</p> <p> 新規参加者数は過去1年以内に参加したことがない人の数とのことであるが、新規参加者の増加率が10%を超えることは非常に良いことだと思う。一方で、本当にその数字が正しいのかという思いもある。そこで新規参加者の定義等を確認させていただきたい。</p> <p>事務局</p> <p> 講座の参加者にアンケートを取っており、過去1年間に講座に参加したことがないと記述があった方を新規参加者数として計上している。このため、公民館の利用が1年以上空いた後に講座に参加された場合は、新規参加者数として計上される。</p> <p>久井委員</p> <p> 広島市の公民館全体として、令和3年度から4年度に向けて、どのような方針で、どのような点を改善するのが気になった。具体的には、令和3年度の特徴ある事業のうち「高度情報化社</p>
--

会に対応した事業」が、令和4年度には「ICT活用のための事業」に変わっている。これについてのどのような背景で項目が変わったのかご説明いただきたい。

事務局

第6次広島市基本計画の中に「ICTの活用」が掲げられており、それを踏まえ、これまでの「高度情報化社会に対応した事業」を令和4年度から「ICT活用のための事業」に更新して、幅広くICTの活用を図る事業が展開できるようにし、公民館の実施方針に盛り込んだ。

これにより、スマホ教室やオンライン事業を進めるなど、様々な事業展開が望めると考えている。

久井委員

令和3年度の「高度情報化社会に対応した事業」が「特色ある事業」に挙がっていないことが特に気になる。また、令和3年度から4年度に向けて、こういった状況の変化があるので新たに項目を追加した、または変更したといったような、全体的な方針の変更とその背景が分かれば、その報告を受けてそれを評価し、次の計画に上手くつなげられるのではないと思う。

事務局

令和3年度の「高度情報化社会に対応した事業」に「特色ある事業」が挙がっていないことについては、当該事業はICTまちづくりボランティアの方と一緒にやる必要があったため、「特色ある事業」に結びつけるまではできなかったと考えられる。その点も踏まえ、多様な可能性を探るために「ICT活用のための事業」へ更新し、事業の幅を膨らませている。

今後も、全体的な方針の変更等があったときには、その内容を検討し公民館の事業に活かせるようにしたい。

山川委員長

行政ならではの課題も孕んでいると思っており、令和3年度の総括を4年度に反映するというよりは、5年度に反映する仕組みになっているようである。

今回の運営員会の中の意見を今年度の事業予算につなげることは難しいが、公民館の運営についてアドバイスをもらい、それぞれの公民館が今年度事業を実施するにあたって咀嚼してもらいたいと思っている。また、先程の「ICTの活用」に関連して、公民館から具体的な事業例について説明していただけないか。

平野二葉公民館長

コロナが拡大し始め、ズームやスマートフォン等を使った事業が少しずつ増えてきている。ズームが実施できる部屋を一室設けて、他所とズームを使った事業も実施している。ズーム環境に慣れない世代の方に対して、ズーム教室を通して、新しい機器に触れる機会を増やして興味を持ってもらえれば、スマホ教室やパソコン教室の参加につながっている。また、他所のグループとズームを使って交流をしたいから部屋を借りたいと言う方も増えている。公民館の中でWi-Fi環境を整えていく必要性を感じているところである。

山川委員長

今までどおりの評価の仕方をしていると質的变化が見えづらいところもある。例えば、事業に YouTube を用いた場合、視聴者側に新規の利用者がいると思われるが、その把握ができていないとしたら、数値には上がってこない新規利用者の広がりがあるように思う。今回の利用者数の中にオンラインでの参加の方が入っているのか事務局に追加で確認してもらっているため、後ほど報告してもらいたい。

神出委員

大河公民館エリアでは、社会福祉協議会でもスマホ教室を実施しているが、高齢者が多い地域なので、サロンで初めてスマホを持ったという方もいて、まだまだ ICT 活用が現実的に進んでいない状況である。

今までコロナで自粛していた人たちが、やっと会えて話ができたとところが現状であり、まずは公民館に来て良かったと、子育て支援においても相談を実際に公民館に来て話ができ良かったと思われることの方が多いと思う。

(3) 広島市公民館の取組について

〈説明〉

参考資料 1 について説明（田尾生涯学習課長）

【事例発表】地域資源に関する学習などを通じた取組について（高陽公民館）

『オレンジカフェこうよう』について

パワーポイントを使って事例発表（高陽公民館 浮田公民館専門員）

〈質疑等〉

岩元委員

今注目されている、人間らしいケアを実践していると感じた。住み慣れた街で地域の人が緩やかにつながりながら、そこで安心して暮らせる場所を提供しており、福祉と同様の役割を担っているように思う。

また、それに加え公民館らしく研修という学びの場を提供し、そのボランティアの方が認知症カフェの利用者になっていくまでが想像できるような発展的な事業であると感じる。

「オレンジカフェこうよう」の参加者 42 名の内訳を教えてください。

浮田公民館専門員

一般の参加者が 12 名、スマイルボランティアの参加者が 13 名、支援に来ていただいた方が 8 名、他施設の南区仁保公民館で「オレンジカフェ」の活動をしている方が 9 名の合計 42 名である。それ以外にスタッフ 21 名に参加いただいた。

南区仁保公民館で「オレンジカフェ」の活動をしている方々からは「オレンジカフェこうよう」を実施するに当たってアドバイスを受けていた。

岩元委員

当事者の方が多く参加することが必ずしも良いというわけでもないと私自身は思っており、誰

かに、公として心を寄せて支援している人がその公民館にいるということが大切だと感じた。

大坪委員

運営ボランティアについて、2回目以降はどのようにしてボランティアを呼び込んだのか。また、運営ボランティアが研修した内容は、個人が元々持っている技術的なものなのか、それとも公民館の研修会で個々に研修をしたものなのかを伺いたい。

浮田公民館専門員

ボランティアの募集について、当初は「オレンジカフェこうよう」の認知度が少ない状況もあり、人伝に声を掛けたり公民館だよりで募集した。社会福祉協議会を通じて個人の関係で知り合いを紹介していただいて増やしたのが最初の実態だった。また、スキルアップのため、オレンジカフェ研修会で専門的な知識を講師の先生から学んだり、他のカフェに視察に行ったりした。

認知症予防の接し方では優しく接することを前面に出して募集した。様々な組織もあり、個人もいる、家族に認知症の方がいる方もいる。長く続けるため、どんなやり方があるかを考えながらやっている。

課題として、高陽公民館ではイベント情報を公開すると、その日のうちに一気に講座の定員が埋まるような状況であり、参加者は常連の方がほとんどである。新規参加者をどれだけ引き込むのか、特に男性の参加をどう募るかが今後の課題となっており、他の近隣カフェでも同じような課題がある。

大坪委員

認知症の方やその関係者の方が参加される際に、その方の意思で来られるのか、それとも包括支援センターや社会福祉協議会から勧められて来るのかをお聞きしたい。

浮田公民館専門員

先ほど言われたように包括支援センターや社会福祉協議会からの声掛けで来られた方や、ご主人が認知症の奥様のために申し込みをされたご夫婦も何組かいる。

上谷委員

地域で開かれている「いきいきサロン」では、お茶を飲みながら、テーマを決めてお話をしたり、ゲームをするような会や、音楽療法として学習グループがコンサートを開催したりしている。「オレンジカフェ」は認知症に関連していると思うが「いきいきサロン」との住み分けを教えてください。

浮田公民館専門員

認知症サポーター養成講座を定期的開催し、ボランティア研修に力を入れて特化していく。いろんなメニューを考える中でサロン化することをスタッフは懸念している。地域に根付くために一般の人も入ってきているが調整が難しいところである。

神出委員

「オレンジカフェこうよう」を広報する時に、参加条件を認知症の方に限定しているのか。

浮田公民館専門員

最初の頃は認知症の方に限定していたが、今はそういった条件を設けていない。ただ、事業の内容として認知症の方やその家族の集いの場を提供すると説明を入れている。広報での対象の表し方は悩ましいところである。

久井委員

公民館はファシリテーターとしての役割が大変重要であることを書かれているが、「オレンジカフェこうよう」はボランティアグループが中心となって公民館が助言し、ファシリテーターとしてボランティアに任せて事業の企画をしているように感じた。この事業での公民館の役割、ファシリテーターとしての課題を教えていただきたい。

浮田公民館専門員

最初の頃、平成 29 年から 30 年 4 月までは公民館が企画をしていた。公民館がストーリーを作りボランティアを引っ張っていたが、公民館が主導になるのではなく、ボランティアが自主的に運営できるように移していくことが課題である。

お金がないので公民館が広報やボランティア研修のために適切な講師を紹介することなどの支援をしている。公民館としては、ボランティアが自主的な活動ができるように広報や適切な講師を紹介するなどの支援が役割であると考えている。

(4) その他

① コロナ禍における公民館活動及び運営について

参考資料 2 に沿って説明（田尾生涯学習課長）

新川委員

公民館の利用者がコロナ以前の 6 割に戻ってきたとのことだが、公民館の運営に危機感を感じている。新型コロナウイルス流行のため、この 2 年間で公民館から利用者が離れてしまった現状があって、新しい手法としてオンラインという手法が出てきた。

学校現場でも現在オンライン授業や、iPad 等の活用が増加している。私も活用するべきものであるとは考えるが、今の子供たちに一番不足しているのはコミュニケーション能力であり、それをどのように形成していくかが重要であると考えている。人と人との触れ合いの中ではオンラインでできないものがある。

公民館で年齢が違う方や地域の方と出会ってお話をしたり、触れ合ったり、公民館まつりで一緒に仕事をしたり、交流することで生まれるものが本当のコミュニケーションではないかと思う。オンラインという新しい手法と言いながら、基本は人と人との触れ合い、つながりが重要だと思っている。

平野二葉公民館長

オンラインに関しては始まったばかりで、実際コロナの中で 4 カ月休館した後、久々に対面での講座を再開し、利用者同士が話をした時すごく嬉しそうな顔をされていた。対面は対面の良さがある。コロナの活動制限により、接触のある社交ダンスは約 2 年半活動できておらず、解散する学習グループも出ている。つなぎ留める方法、新しい手法で集うことのできる場、直接人と人が

関わられる場、この二つの方向で何か考えられないかという意識で今後、考えていきたい。

福原委員

高齢者になって安心して暮らせる地域づくりとかまちづくりとは、当事者や家族だけではなく、その地域の人たちみんなに関わってくることだと思う。例えば、小学生がお年寄りの方々の生活とか営みを学ぶことも非常に大事だと思う。

20年位前に「おじいちゃんおばあちゃん研究」という総合学習の授業を計7回行った。公民館にも介護についての様々な講座があるというところを聞き、子供たちと一緒に参加したことがあった。公民館と連携を図り、肌と肌が触れ合う中で子供たちが学んでいくことは、非常に勉強になったと記憶している。公民館の活動をしっかり広報していただき、学校側がその活動を活用していきながら連携を深めていく必要があると思う。

田頭委員

西区でも月1回、社会福祉協議会でオレンジカフェと同様の事業をやっている。

上谷委員

地域の方の意見を聞いて、できれば今年は公民館祭りをしてもらいたいと思っている。公民館祭りの運営について把握されている方が少なくなってきたおり、今年も中止すると来年には知っている人がいなくなるおそれもある。小・中学校の吹奏楽部も演奏させてもらいたいと言ってきており、様々な行事が前向きになっている。他館の開催状況を教えていただきたい。

高田委員

五日市公民館祭りではネパールの方が多く来られ、踊ったり歌ったりとても賑やかである。公民館は現在耐震工事を行っており、新型コロナウイルス感染も怖いところであるが、開催を楽しみにされている。

山川委員長

皆様が危機感や課題を感じており、公民館の運営に協力したいという思いを持たれていることが、この会議で共有できた。現場の職員の方とも危機意識を共有し、オンライン等の新しいやり方だけでなく、コロナの感染防止対策により半数利用者数は減るので、どのようにカバーするのか、引き続いて知恵を共有し、小さく試行錯誤を重ねていきながらやっていければよいと考える。

3 閉会

山川委員長

長時間になったが、熱心にご意見、ご支援いただいた。終了予定時刻になったのでこれをもって本日の会議を閉会する。